

1 調査名称：可児市総合都市交通体系調査

2 調査主体：可児市

3 調査圏域：可児市管内

4 調査期間：平成 26 年度

5 調査概要：

第 5 回中京都市圏パーソントリップ調査において予測される平成 47 年交通量予測結果及び配分手法に基づく路線別の将来交通量を推計し、交通特性等の分析結果等を踏まえ、都市計画道路等の諸元設定を行い、見直し方針を作成する。

見直し方針に基づく評価・検討結果を踏まえ、重点整備路線・区間、見直し候補路線を抽出する。

## I 調査概要

1 調査名：可児市総合都市交通体系調査

2 報告書目次

### ■調査フロー

#### 1 都市計画道路等の整備状況

1. 都市計画道路整備状況
2. 都市計画道路の構造及びネットワーク形成上の問題箇所の把握
3. バス路線状況
4. 緊急輸送道路の状況
5. 通学路の状況

#### 2 交通需要特性

1. 交通需要の背景
2. 交通需要特性

#### 3 自動車交通の流動状況

1. 自動車交通量
2. 混雑時自動車旅行速度

#### 4 安全安心な交通環境問題地区の把握

#### 5 都市計画道路等の整備課題の整理

#### 6 整備課題への対応方針の検討

1. 将来交通量推計
2. 整備課題への対応方針の検討
3. 対応方針検討結果のまとめ

3 調査体制：

委員会、幹事会等の設置なし

4 委員会名簿等：

なし

## 1 調査目的：

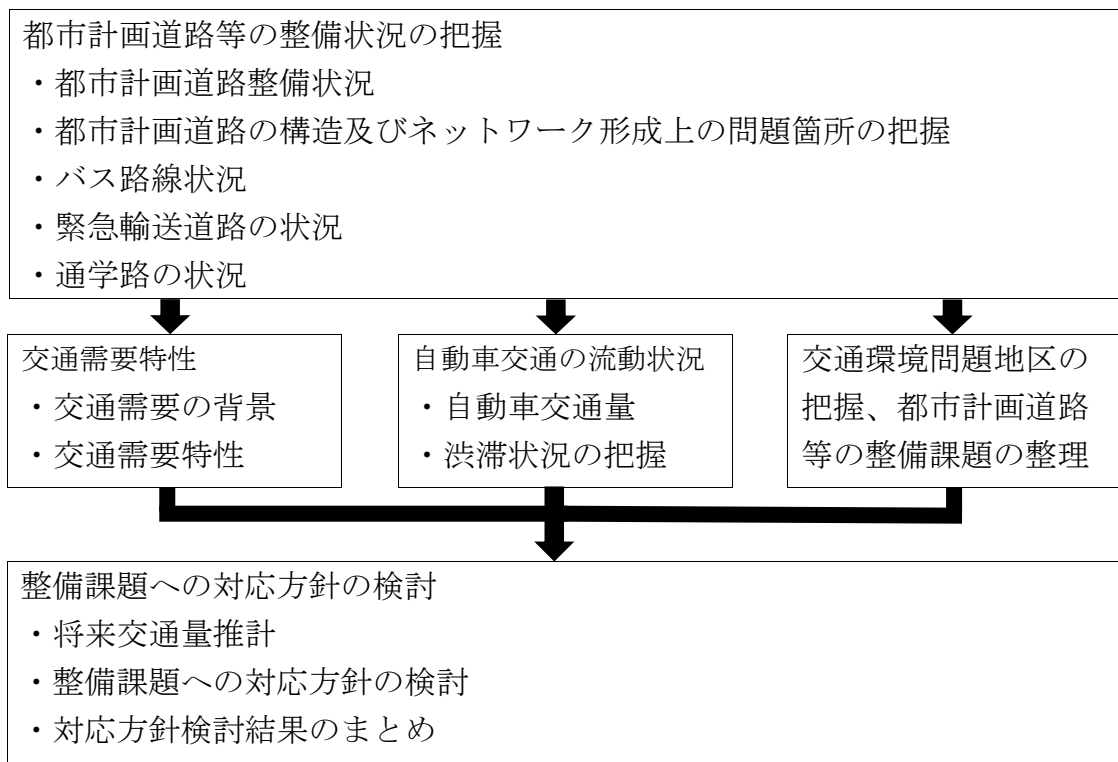
本市では、昭和 33 年に 7 路線、約 17km の都市計画道路が決定されて以降、これまでに 28 路線、約 91km が計画決定されており、平成 24 年度末でそのうち約 47km が完了し改良率は 51%となっている。未整備路線には長期未着手路線も多く、都市計画上の大きな課題となっている。

本市では、第 3 回中京都市圏パーソントリップ調査による平成 32 年将来交通需要予測値（中間年次見直し）を用いて、平成 13 年度に廃止候補路線やその代替策、整備時期等、都市計画道路の見直しを行って以来、10 年以上にわたって現行計画が維持されているが、その間に国道 248 号及び国道 21 号の一部四車線化や平成 17 年に東海環状自動車道可児御嵩 IC が供用開始されるなど、本市における幹線道路網などの交通基盤整備が進んでいる。

また、可児御嵩 IC 周辺の広見東部地区や坂戸地区で開発が進むなど土地利用も大きく変わってきていること、さらに二野工業団地への企業進出が決まっていることから、それに伴う交通量の増加等により道路網の見直しが求められている。

さらに、人口減少や超高齢社会を迎え、財政の逼迫や環境問題等、社会経済情勢が大きく変化しており、道路整備計画の検討、都市計画道路の見直しを行う必要があるため。

## 2 調査フロー





## 4 調査成果

## 1 都市計画道路等の整備状況

可児市の都市計画道路整備状況

・整備率（改良済）：約 51%、（概成済を含む）：約 80%

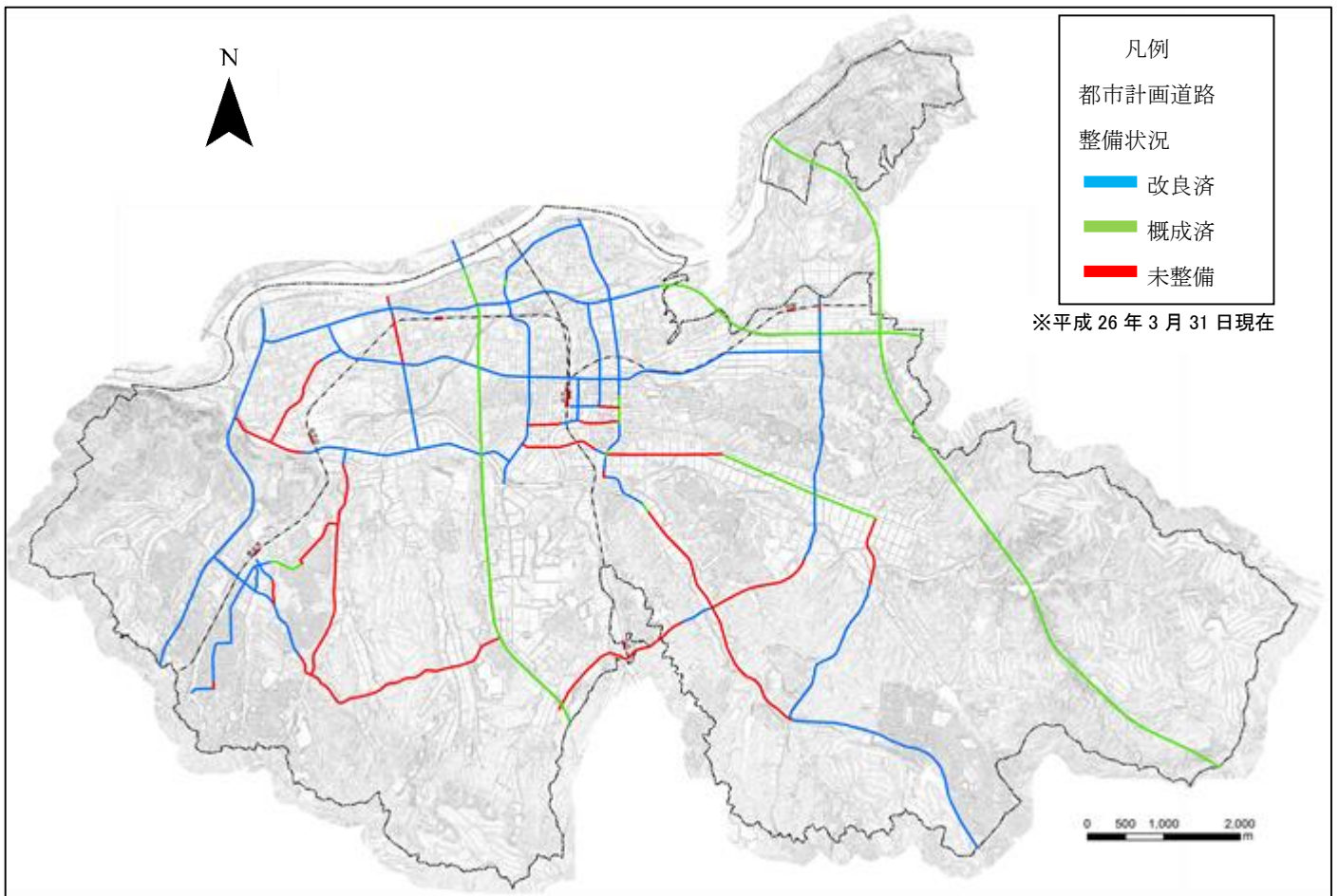
表 都市計画道路整備状況一覧（平成 26 年 3 月 31 日現在）

路線番号・路線名	幅員 (m)	総延長 (m)	改良済延長 (m)	整備率	概成済延長 (m)	改良済・概成済 延長 (m)	概成済含む 整備率(%)	構造
1.3.1 東海環状自動車道	23.5	7,450	0	0%	7,450	7,450	100%	地表式・覆上式・地下式
1.3.1 東海環状自動車道 (都市計画道路の一部)	23.5	3,240 (可児市内600)	0	0%	3,240 (可児市内600)	3,240 (可児市内600)	100%	地表式・覆上式・地下式
3.2.1 名濃バイパス線	31.5	5,220	5,220	100%	0	5,220	100%	地表式
3.3.2 中濃大橋部電線	25.0	9,010	5,260	58%	3,750	9,010	100%	〃
3.3.3 可児248号バイパス線	25.0	6,790	0	0%	6,790	6,790	100%	地表式・覆上式
3.4.4 広見土田線	16.0	8,580	6,840	80%	0	6,840	80%	地表式・地下式
3.5.5 前波田線	12.0	2,590	1,960	76%	590	2,550	98%	地表式
3.5.6 川合矩ヶ丘線	12.0	2,600	2,600	100%	0	2,600	100%	〃
3.5.7 今渡坂戸線	12.0	2,070	1,300	63%	0	1,300	63%	〃
3.4.9 可児駅前線	20.0	690	370	54%	0	370	54%	〃
3.5.10 中郷土広見線	12.0	1,310	1,310	100%	0	1,310	100%	〃
3.5.11 沢渡土田線	12.0	3,240	2,780	86%	0	2,780	86%	〃
3.5.12 羽崎沢渡線	12.0	3,990	150	4%	2,020	2,170	54%	〃
3.5.13 井の鼻長河線	12.0	3,100	200	6%	0	200	6%	〃
3.5.14 南前五徳環状線	12.0	5,060	1,770	35%	0	1,770	35%	〃
3.5.15 東前五徳環状線	12.0	10,590	4,610	44%	850	5,460	52%	〃
3.4.17 柿田明智線	16.0	530	490	92%	0	490	92%	〃
3.4.18 大森桜ヶ丘線	16.0	3,280	3,280	100%	0	3,280	100%	〃
3.5.19 若葉台長坂線	12.0	3,710	2,450	66%	450	2,900	78%	〃
3.5.20 西可児駅前線	12.0	650	400	62%	0	400	62%	〃
3.5.21 川合線	12.0	1,120	1,120	100%	0	1,120	100%	〃
3.5.22 東山線	12.0	350	350	100%	0	350	100%	〃
3.5.23 今渡川合線	12.0	1,590	1,520	96%	70	1,590	100%	〃
3.4.24 大森田線	16.0	2,310	680	29%	0	680	29%	〃
3.4.25 二野大森線	16.0	2,180	860	39%	0	860	39%	地表式・地下式
3.4.26 広見高前線	18.0	1,200	250	21%	0	250	21%	地表式
3.4.27 今広東線	18.0	530	530	100%	0	530	100%	〃
7.6.1 中切線	8.0	330	330	100%	0	330	100%	〃
総計		90,670	46,630	51%	22,570	72,440	80%	

注) 改良済延長とは道路用地が計画幅員と同等確保されており、一般の通行の用に供している道路延長である。

概成済延長とは改良済以外の区域の5m幅員として都市計画道路と同幅員の機能を果たしている既道（概ね計画幅員の3分の2以上）を有する延長である。

図 都市計画道路整備状況図





## 2 都市計画道路の構造及びネットワーク形成上の問題個所の把握

- ・都市計画道路未整備区間には、渡河部（河川を横断する箇所）、跨線部（鉄道を横断する箇所）が多く残っている。
- ・跨線部については、全て立体構造として計画されており、整備には多大な費用や長い期間を要することが想定される。

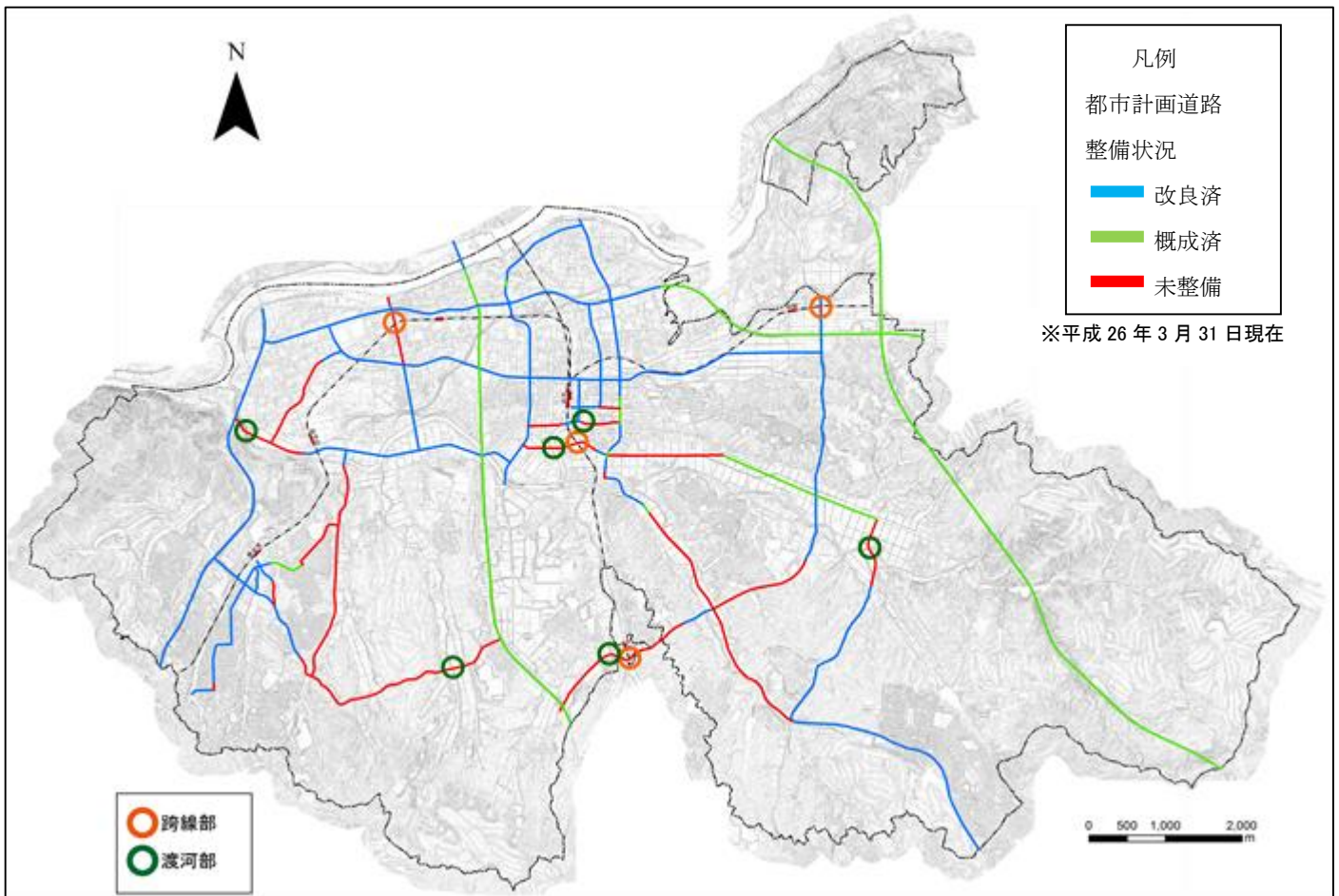


図 都市計画道路未整備区間における渡河部および跨線部



### 3 将来交通量推計

#### ・将来自動車発生集中量

第5回中京都市圏パーソントリップ調査（以下「第5回 PT 調査」とする）において予測される、平成47年を目標年次とする自動車交通量予測結果及び配分手法に基づき、将来交通量を推計する。

第5回 PT 調査における可児市全体の将来自動車発生集中量の予測は以下の通りとなっており、ほぼ横ばいの予測となっている。これは、将来的にも現在とほぼ同等程度の自動車交通需要が見込まれることを示している。

表 可児市全体における自動車発生集中量の予測

平成23年	平成47年	平成23→47年増加率
335,903 台/日	326,799 台/日	<b>0.97</b>

### 4 対応方針結果のまとめ

都市計画道路等の整備課題に対する対応方針について、検討結果を以下の表と図にまとめる。

表 都市計画道路等検討結果総括表

検討結果	路線名	対応方針
<b>優先整備路線</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (都) 広見土田線</li> <li>● (都) 沢渡土田線</li> <li>● (都) 二野大森線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 路線整備の必要性が高く、技術的課題も少ないことから、優先的に整備を進める</li> </ul>
<b>機能強化路線</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 坂戸・下恵土地区 商業地内の主要市道</li> <li>● 坂戸・下恵土地区 可児川右岸の主要市道</li> <li>● 広見地区 南北方向の市道2路線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東西方向のネットワーク強化、交通負荷の軽減効果が期待できることから、路線機能の強化を図る</li> </ul>
<b>技術的検討路線</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (都) 今渡坂戸線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 将来交通量推計上、廃止は可能であるが、路線整備が市街地形成に有効であることから、今後、技術的な整備課題について再検討する</li> </ul>
<b>廃止候補路線</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (都) 若葉台長坂線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市計画決定後の状況の変化、将来交通量推計結果より、廃止候補とする</li> </ul>

図 都市計画道路等検討結果総括図

